

### **有田陶磁美術館（詳細）**

有田陶磁美術館は 1954 年に佐賀（さが）県最初の博物館として開館した。その当時は、世界に 3 つしかない陶磁器専門博物館のひとつであった。建物自体は 1874 年に建てられ、磁器倉庫として使用されていたもので、一時期は学校としても使われていた。館内は 2018 年改装が行われたが、展示用の飾り棚やケース、ランプは開館当時のものである。

この美術館の収蔵品の中で最も重要な作品のひとつが、1830 年代～1850 年代のいずれかの時点で作られた藍と白の染付（そめつけ）大皿である。この大皿には、泉山（いずみやま）磁石場で磁石の採掘の様子や、粉碎、成形、絵付、施釉、焼成といった、江戸（えど）時代（1603～1867）における有田焼の全生産工程が描かれている。

また、明治（めいじ）時代（1868～1912）に世界博覧会で展示されたり海外に輸出されたりした磁器も展示されている。中国磁器に似せて作られ、精巧なデザインと鮮色が特徴の作品や、浮世絵風に作られ海外で多く販売された作品がある。有田の地元の職人たちがデザインした文様は、こういったものよりもっと繊細なものが多く、高度な技術を必要とする小柄のデザインやモチーフが特徴であった。

美術館の 2 階には、過去何世代もの名工たちの作品が展示されている。他の場所とは違い、ここでは同じ窯元の師匠と弟子の作品を一緒に見ることもできる。